

Ⅱ. 未婚者の家計行動

(1) 計画的な人ほど結婚しない？結婚しない人ほど将来に備えている？

結婚しているか、それとも独身でいるかによって、消費やライフスタイルのあり方は異なることが予想される。そこで、ここでは(a)30歳までに結婚する女性（結婚グループ）と(b)35歳まで未婚だった女性、(c)40歳まで未婚だった女性（(b)と(c)をあわせて未婚グループとよぶ）の間に、同じ20歳代時点（24～29歳）の家計行動を比較すると、以下の3点の特徴があることが確認された。

- 未婚グループは、20歳代の貯蓄残高や月々の貯蓄割合が高く、未婚期間が長い人ほどその傾向は大きい。
- 未婚グループは、保険加入割合が高く、未婚期間が長い人ほどその傾向は大きい。
- 未婚グループの方が、カード利用において計画的な利用を行っている。

このように、計画的な家計行動をとることと、未婚継続期間が長いことに関連があるという結果が得られた。このことが意味しているのは、①計画的な家計行動をとっている女性ほど一人で自立した生活が営めるため、結果的に未婚継続につながるということか、あるいは②そもそも、結婚せずに将来一人で生きていく可能性を考えていた女性が、あらかじめ経済的に備えていたということの、2つの可能性が考えられる。

図表Ⅱ－1 結婚グループと未婚グループとの20歳代時点における家計行動比較

	結婚グループ	未婚グループ	
	(a)30歳までに結婚	(b)35歳まで未婚	(c)40歳まで未婚
貯蓄			
貯蓄残高(万円)	196.2	249.1	311.7
貯蓄割合(月収に占める割合、%)	22.4	25.7	30.7
保険			
保険加入割合(%)	73.8	76.9	82.2
カード利用について(複数回答、%)			
利用限度額を月に2万円位までと決めている	14.3	7.6	3.6
利用限度額を月に5万円位までと決めている	17.3	16.7	18.2
月々の返済金額の限度を決めている	12.8	24.4	20.0
特に制約を設けていない	45.1	39.3	41.8

対象数:「30歳までに結婚」した者 353人、「35歳まで未婚」だった者 168人、「40歳まで未婚」だった者 67人

(2) 「パラサイト」から「家族に貢献する存在」へ?

1990年代の終わりに、「パラサイト・シングル」として、親と同居する未婚者に対して、学校を出た後も親元に残って、親に依存しながら優雅な独身生活を過ごしているというイメージが広まった。それから約10年を経た現在、親と同居している未婚者は、当時とどのような違いがあるのだろうか。ここでは、親と同居している未婚者（同居未婚者）にしぼり、1998年に28～35歳であった未婚女性と、2007年に28～35歳である未婚女性について、就業、家計行動の比較を行った。主な結果は以下のようになっている。

- 1998年とくらべて、2007年では、正規就業割合が低く、手取り収入も少ない。
- 2007年では、自由裁量支出の金額が小さい。
- 2007年では、家にお金を入れている人の割合が高い。
- 2007年では、趣味娯楽時間が短く、家事時間が長い。

かつて「パラサイト」と呼ばれた同居未婚者であったが、従来のイメージとは異なり、現在の同居未婚者は、過半数が家にお金を入れ、さらに家事時間も長くなっているなど、むしろ家族のために貢献している面が強まっているようである。

図表Ⅱ-2 同居未婚女性 1998年と2007年の就業・家計比較

	同居未婚者 2007年 28～35歳 平均	同居未婚者 1998年 28～35歳 平均
正規就業割合(%)	71.0	79.1
手取り収入(月、万円)	15.7	18.5
自由裁量支出(月、万円)	4.4	6.1
家にお金を入れている 人の割合(%)	57.1	50.3
家にお金を入れている額 (月、万円、入れている者のみ)	3.5	4.2
仕事時間(平日、分)	480.7	457.3
家事時間(平日、分)	49.3	48.6
家事時間(休日、分)	121.9	78.0
趣味娯楽時間(平日、分)	185.5	204.2
趣味娯楽時間(休日、分)	500.2	520.0
人数	約180	約300

自由裁量支出＝被服・はき物、教養・娯楽、交際